

私たちの軌跡

プロローグ

prologue

きのう、友達にカードを引いてもらった。

(カードの話はまたあとで)

ゆかもんと2人で私達はお互いにとってどうい存在か。カード目線で見てもらった。

その中で今まで思っていたけれど言葉には出さなかったこと

「ゆかもんと私の当たり前を話す」

というのはじめての時間をとることになる。

私は話し出したら止まらなくなって三十分位全力で話して、ゆかもんはそれを「うんうん」と聞いていた。

友達はずっと驚いたり、関心したり、考えたりしていた。

始まりは『雑誌の表紙をゆかもんが作ったココ。』

一緒に仕事をしながらも

お互いにお互いを認識していなかった時期もある。

そして、はじめて会ったのはこの日。

二〇二二年三月終わりのこと。実は超最近。

はじめて会った日から急にスイッチが入ったように

「2人で全力で仕事をする時間」

「2人で全力で楽しむ時間」が流れ込んできた。





もうずっと前から決まっていた仕事なのに
それまでゆっくり進んでいたのに
会ったあの日から急におかしい位に
凝縮した時間、凝縮した出来事。

毎日笑って笑って

私達は「どうやるか」を話し合うことは沢山あるけど
「やるかやらぬか」を話したことはない。

つまり「ひらめいたらやる」それ一択。

役割も決まっている。ゆかもんが0からおろして来たものを
私が打って場外にとばす。それはお互いに息をするように出
来ること。めちゃくちゃ笑いながら出来ること。私にない部
品はゆかもんが全部持っている。逆も然り。本当にそうかどう
かなんてどうでもよくてお互いがそう思って安心してしまってい
ることが最も重要。

「ひらめいたらやる」それ一択

同じ方向を見て同じ方法で同じ言語で無理に合わせた
ことは一度もない。出来ない・やりたくないと思ったこ
とも一度もない。

それが普通だと思ってやって来たけれど。
一息ついた時によく言う一般的な普通ではないのかもし
れないと思った。それはきのう私の話を聞いていた友達
の表情を見て確信に変わる。

これから「私達の普通」をカタチにして出していく。

もちろんそれはブログじゃない。私達の出会い・私達
のやり方・私達の出来事・「私達の普通」
何かひらめいたからやって来たんじゃない。
目の前に降って来る現実を2人で無邪気につかんで来た
だけだ。逆なんだよ。現実が現れるから2人でそれに
形を与えて来た。

一緒ならきつと楽しいに決まっていると

一瞬たりとも疑わなかったその先に

みんなの笑顔があったただだけだ。

お互いの笑顔があったただだけだ。

あの人もあの人もあの人も。

そしてこれから会うあなたも。

私達に触れるといい。

私達のやり方に触れるといい。

知るか知らないかはあなたの選択だ。

やるかやらないかもあなたの選択だ。

言っておくけど私達は天才だ。

知ったからと言ってあなたがやれるかは別の問題。

それでもあなたが望むなら必ず手元に届けます。

そうそれはもちろん私達にしか出来ないやり方で。